



いのちの意欲



大谷中学・高等学校
校長

飯山 等

娘に恵まれた幼い命から生きることの大切な原点を教えられています。スマホという便利なツールで折々に送られてくる動画に思わず見入ってしまいます。生まれて3ヶ月ほどの灯くんが一生懸命寝返りをしようとしています。何度も何度もチャレンジして、ハアハアと呼吸が荒くなります。始めは励ましていたお母さんも「つかれたねえ、もういいよ」と声をかけます。でも灯くんはチャレンジし続けます。4分ほどかかってついに初寝返りに成功しました。「やったあ-お祝いだねっ」と兄の新しく。今度はハイハイする灯くん。衣装ケースに手をかけてズズと滑ったり、床で頭をゴツンと打ったりしながらも立ち上がろうとします。腰がふらふらと覚束ないこと、おじいちゃんもスマホ越しであることを忘れて思わず手を添えたくくなります。1歳を少し過ぎたばかりの灯くん。お母さんやお兄ちゃんが「走っちゃダメだよ」ととめても、ちよこちよこ走ってすぐにドテッと転んでいます。でも転んだくらい何のそのです。灯くんは命の《なりたい》にあふれています。そのいのちの意欲は今のきみにも熱く息づいています。

自分が活きる



京都府立大学 文学部
欧米言語文化学科

松本 朋泰

2022年3月バタビア・マスタークラス卒
茶道部（内部進学）

大谷の魅力として、私は「懐の深さ」を第一に挙げたいと思います。面倒見の良さに何度も救われ、ハッパをかけてくださった先生方には、感謝の言葉もないほどです。個性豊かな先生方とその授業は、私が学校へ通う動機となりました。とりわけ中学の3年間授業を受け持ってくださいました国語の先生の授業は、作品を取り扱う軽妙な語り口が魅力で、楽しく心地よい時間でした。先生方の授業を通して、学ぶことのおもしろさを見出すことができ、自ら学ぶ姿勢を身につけられたことは、大谷での6年間で私が得た最高のものといえます。与えられたものに満足せず、進んで物事を理解しようと試みる姿勢、それによって獲得できる視座は生涯の財産です。大谷での6年間は濃厚な時間でした。「やり残したことはないか?」という自問に「ない」とは答えられませんが、「これで良かったか?」と尋ねられれば、私は満面の笑みであの6年間を抱きしめることができます。私を活かしてくださった大谷に心の底から感謝しています。